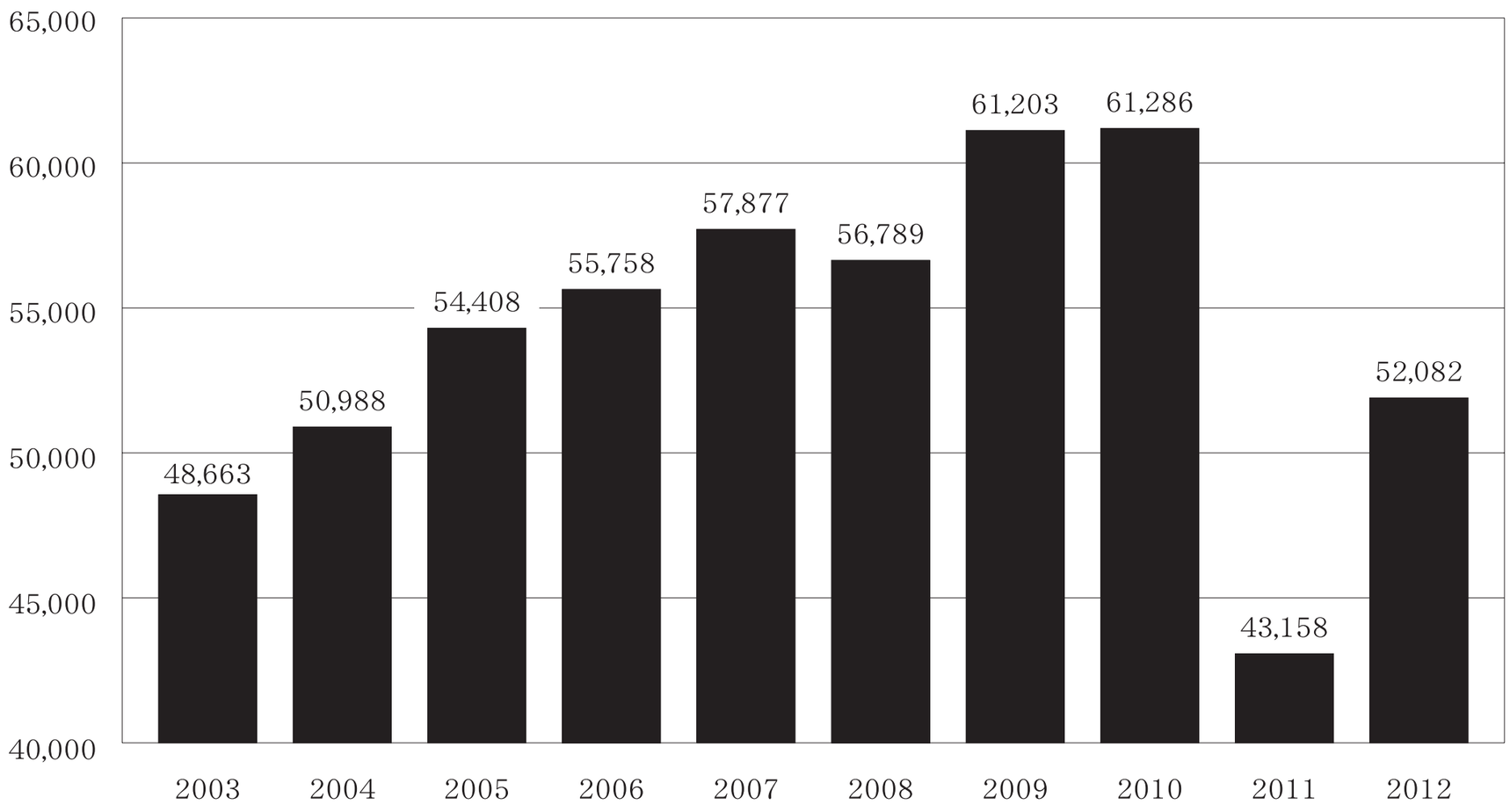
宮城県の2012年観光統計概要

県経済商工観光部
観光課まとめ

震災前に届かずも再生へ着実な歩み

調査データ

年次別観光客入り込み数の推移



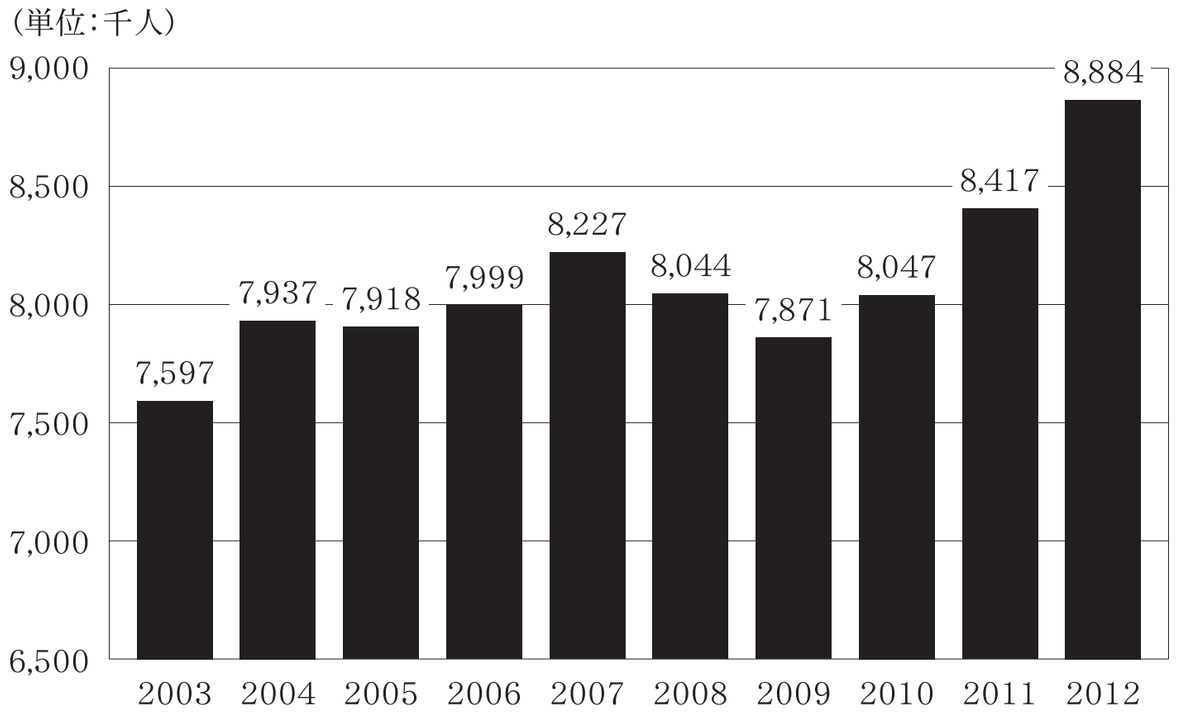
2012年観光客入り込み数

圏域	地区	2012年	前年比
仙南	蔵王	3,771,684	128.9%
	阿武隈渓谷	531,300	105.7%
	その他の地域	1,481,545	155.5%
	小計	5,784,529	132.0%
仙台	仙台市	12,296,398	112.2%
	松島	4,867,879	131.3%
	二口渓谷	2,787,600	105.6%
	船形連峰	3,755,932	129.2%
	その他の地域	5,478,858	138.9%
	小計	29,186,667	120.8%
大崎	鳴子温泉郷	1,956,611	101.6%
	薬莱山	1,353,886	104.7%
	その他の地域	6,075,558	107.8%
	小計	9,386,055	106.0%
栗原	全域	950,059	123.3%
登米	全域	2,619,795	114.5%
石巻	全域	2,473,715	129.1%
気仙沼本吉	気仙沼・唐桑半島	662,047	226.7%
	南三陸海岸	1,019,185	204.0%
	小計	1,681,232	212.4%
合計		52,082,052	120.7%

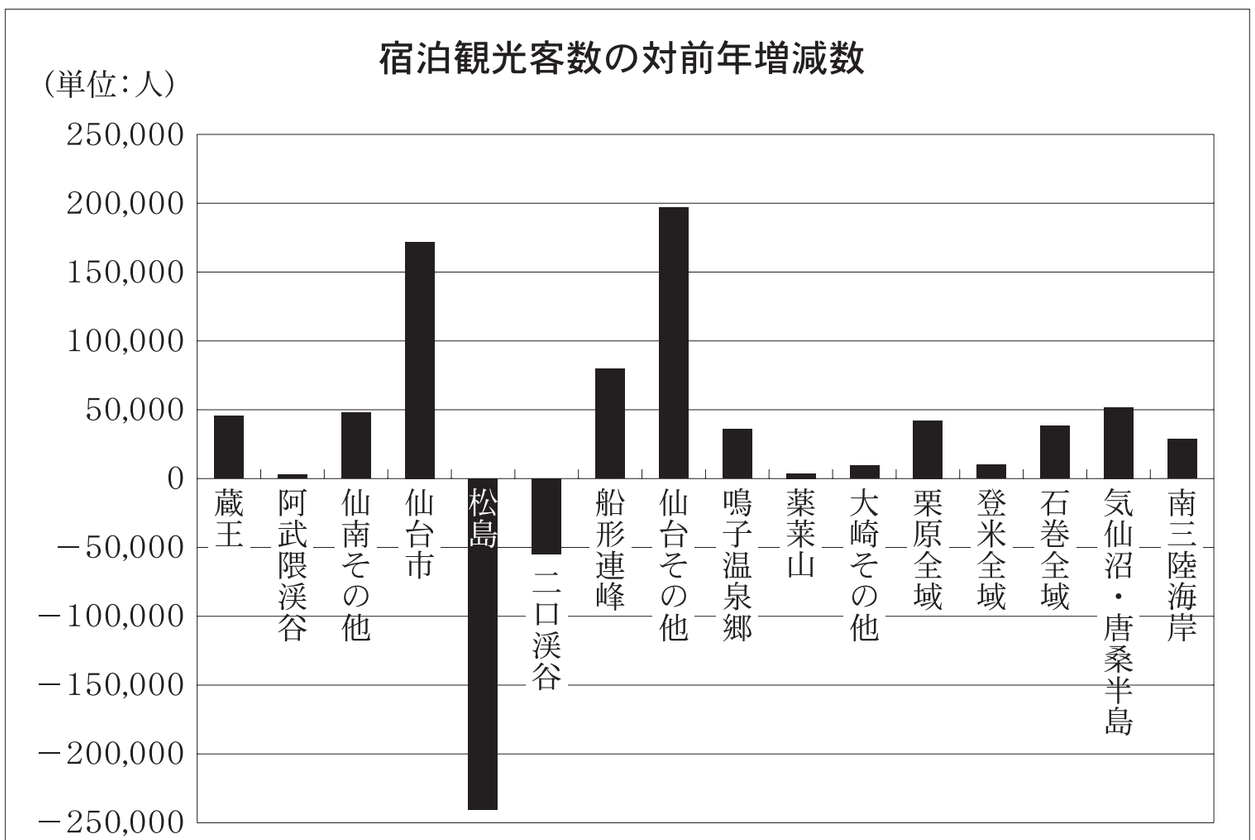
注）蔵王地区（白石市、蔵王町、七ヶ宿町、川崎町）、阿武隈渓谷地区（丸森町）、松島地区（松島町、塩竈市、七ヶ浜町）、二口渓谷地区（旧秋保町、旧宮城町作並・奥新川）、船形連峰地区（旧宮城町定義、旧泉市、大和町）、鳴子温泉地区（旧鳴子町）、薬莱山地区（加美町、色麻町）、気仙沼・唐桑半島（気仙沼市）、南三陸海岸地区（旧本吉町、南三陸町）

観光入り込み数前年比20.7%増
イベント・行事の再開などが奏功

宿泊観光客数の推移



宿泊観光客数の対前年増減数



復興関連需要で宿泊は5.6%増加

宮城県の昨年1年間（2012年1～12月）の観光客入り込み数は5208万2千人で、前年比20・7%増加（892万4千人増）した。

震災前の2010年（6128万6千人）と比較すると、920万4千人少ない85・0%の水準にとどまるが、70・4%だった2011年と比べると、着実に回復している。県では増加の要因として、各地で震災の影響で中止となったイベント行事・観光施設が再開されたことや、復興支援ボランティアツアーや復興商店街などの復興関連の集客があったことなどを挙げている。

圏域別では、石巻圏域で前年比29・1%、仙台圏域で同20・8%、大崎圏域で同6・0%それぞれ増加。気仙沼圏域では同112・4%増と、倍増以上となった。

ただ、震災前の2010年比では、仙台圏域で13・3%、石巻圏域で44・2%、気仙沼圏域で53・6%それぞれ減少している。

一方、昨年の宿泊観光客数は888万4千人（46万8千人増）した。震災前の2010年（804万7千人）と比べても、10・4%増加（83万7千人）している。

県では増加の要因として、前年に続き復興関連の需要が考えられるとしている。

圏域別では、前年比で7圏域全てが増加している。ただ、震災前の2010年比では、宿泊施設が甚大な被害を受けた石巻圏域、気仙沼圏域がそれぞれ73・0%減、32・3%減と減少している。宿泊施設の復旧の遅れが影響している。